

## LPガスCP速報(2020年4月積)

### 1. 4月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **230** <sup>ドル</sup> (前月比-200 <sup>ドル</sup>) \* 2003年5月以来安値  
 ブタン **240** <sup>ドル</sup> (前月比-240 <sup>ドル</sup>) \* 2003年6月以来安値

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が新型コロナウイルス感染拡大により急落するなか、LPガス需給はインド、中国の堅調な需要(インドは都市封鎖で家庭用需要増加)がある一方で、サウジの増産観測で需給は緩和、第3週にはCP先物がプロパン、ブタンともに急落200 <sup>ドル</sup>を割り込み、プロパン安・ブタン高の格差も解消した。米国産キャンセルで第4週は反発、極東CFRはプロパン225 <sup>ドル</sup>、ブタン230 <sup>ドル</sup>どころ。

全米プロパン在庫は、輸出が堅調、不需求期入りも需要は堅調で在庫は減少が続いているが、前年同期を25%上回っている。ブタンはガソリンブレンド用需要減。米モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況に連れ安、前月比45 <sup>ドル</sup>下げの165 <sup>ドル</sup>どころ(グラフ②, ③)。

フレート市況は軟化続落。米中摩擦緩和で航海効率化の期待、インド沖滞船はあるものの船舶余剰感で上値は重い展開。前月の70~60 <sup>ドル</sup>台から10 <sup>ドル</sup>以上下げている。

ナフサは原油価格に追随、景気失速懸念で急落、直近は200 <sup>ドル</sup>割れ、月間平均は300 <sup>ドル</sup>どころで、前月比180 <sup>ドル</sup>強の下落。

バンカーオイルは原油市況に追随して急落した。シンガポールI F O380 は月間平均で前月比90 <sup>ドル</sup>安の230 <sup>ドル</sup>どころ、L S M G O (低硫黄マリンガスオイル) は158 <sup>ドル</sup>大幅続落の355 <sup>ドル</sup>どころ、両油種の格差は125 <sup>ドル</sup>に縮小した。

4月CPは前年同月比プロパン285 <sup>ドル</sup>、ブタン295 <sup>ドル</sup>安。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン15、ブタン23ポイント低下、前年同月比ではプロパン17ポイント、ブタン18ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	58.7	57.7	58.5	56.0	57.7
CP先物指標:P	360	280	195	205	260
CP先物指標:B	395	285	195	210	271

#### ② 原油市況等

原油市況は暴落、3月46 <sup>ドル</sup>台でスタートしたWTIは30日一時20 <sup>ドル</sup>を割り込み終値も2002年2月以来の20.09 <sup>ドル</sup>に値を沈めた。COVID-19感染拡大! WHOはパンデミックを宣言し世界各国で都市封鎖、移動制限が行われ、エネルギー需要が激減するなか、OPECプラス協議が決裂し、これまでの協調減産も終了、スウィングプロデューサー役を担ってきたサウジもシェア競争に舵を切り、4月産油量1,230万b/dまで引き上げると表明、ロシアも増産を打ち出した。需要減の中の供給過剰により記録的な下げとなった。

一方、米国内原油生産量は1,300万b/dの過去最高水準を維持、原油輸出も400万b/d超の最高水準で推移した。製油所稼働率が低迷、原油在庫は増加するなか、2月以降、原油・石油製品ネット輸出が続いている。ただ、米石油リグ稼働数は原油暴落を受けて第3週以降急減しており、直近で前年同期を192基下回る624基、2017年3月以来の水準。なお、急増していたカナダの石油リグ稼働数も急減、2月の172基から直近は18基に激減した。CFTC発表の大口投機玉の買残残高は24日時点では436千枚、前月末から5千枚増加。米株価が過去最大の下げを記録するなどリスクオフの状態建て玉は減少、原油は利食いの手仕舞い買戻しも。

○3月積みアラビアン・ライト(3月1~30日の想定)は37.20 <sup>ドル</sup>(前月比-20.92 <sup>ドル</sup>)

熱量等価AL100% プロパン305.00 <sup>ドル</sup>/トン ブタン300.82 <sup>ドル</sup>/トン

AL比 プロパン75.41% ブタン79.78%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

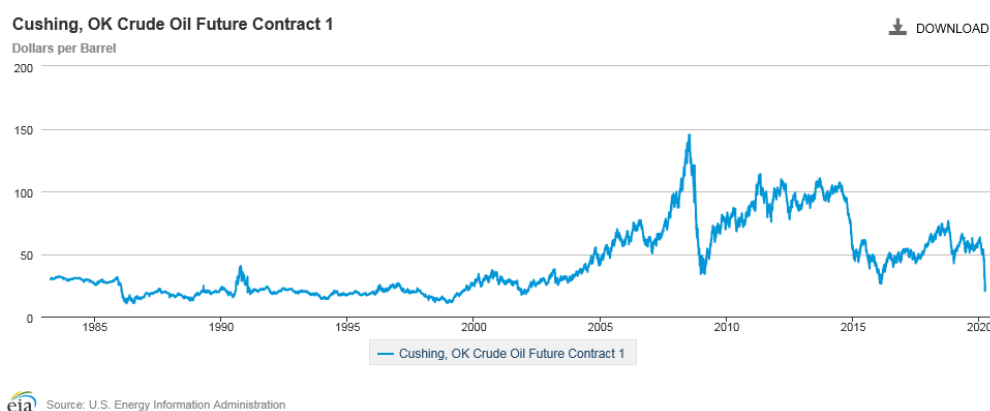
## 2. 2020年4月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	108.37	42,200	45,400	40,900	-16,100	-17,900	-13,700
②末日締め	108.41	35,800	39,000	33,800	-16,100	-17,900	-12,800

\* T T S平均について、①が2月21日～3月20日、②3月1～31日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①がCP75%、MB25%、②がCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは2月27日までの価格を基にE I Nで試算（165<sup>ドル/トン</sup>）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はW e bサイトを参照。

### ①WT I 価格推移



### ②MB 価格推移



THOMSON REUTERS

